

科目名	防災計画 + 景観工学	科目コード	51545
-----	-------------	-------	-------

学科名・学年	環境都市工学科・5年（プログラム2年）
担当教員	塩野 計司・宮腰 和弘（環境都市工学科）
区分・単位数	履修単位科目・必履修・1単位
開講時期・時間数	前期，30時間【内訳：講義28，演習0，実験0，その他2】
教科書	なし
補助教材	自作資料
参考書	篠原 修： 土木景観計画（新体系土木工学59）（技報堂） 樋口忠彦： 景観の構造（技報堂）

【A．科目の概要と関連性】

この授業の前半（第1回～第7回）では基盤施設の建設に際して考慮すべき、景観との調和について考察する。景観把握モデルに関する学習を中心とし、景観計画の意義・目的・方法などについて学習する。後半（第8～15回）では、地震災害を主な対象として、自然災害の原因、態様（被害、影響）、対策について学習する。

関連する科目：前半 都市計画（1），都市計画（2）

【B．到達目標と学習・教育目標との対応】

この科目は長岡高専の学習・教育目標の（D）と主体的に関わる。

この科目の到達目標と、成績評価上の重み付け、各到達目標と長岡高専の学習・教育目標との関連を以下の表に示す。

到達目標	評価の重み	学習・教育目標との関連
自然災害の態様と自然災害に対処するための方法（防災対策）を、日本の状況を例として理解する。	50%	e1
景観の土木建築構造物に対する調和について理解する。	50%	d1

【C．履修上の注意】

この科目の前半（景観工学）では、当該分野の先駆者が著したものを手がかりに、景観の問題の考え方を整理する。後半（防災計画）では、一人の技術者として、災害というものをどのように捉え、どのように災害に対処したらよいかを考える機会としてほしい。

【D．評価方法】

次に示す項目・割合で達成目標に対する理解の程度を評価する。60点以上を合格とする。

定期試験（50%）【内訳：前期末50%】

その他の試験（40%）

レポート（10%）

【E. 授業計画・内容】

後期

回	内容	備考
1	景観計画の意義と役割	
2	景観分析の基礎指標(1)	
3	景観分析の基礎指標(2)	
4	景観の捉え方	
5	景観把握モデル	
6	シーン景観把握モデルによる土木景観の把握	
7	景観についての試験	
8	導入(中越地域に発生した近年の自然災害)	
9	災害対策の時間割1(全体像と応急対策)	
10	災害対策の時間割2(復旧・復興と予防対策)	
11	災害と災害対策の歴史1	
12	災害と災害対策の歴史2	
13	災害対策の法律	
14	日本の防災計画	
-	前期末試験	試験時間: 50分
15	試験解説と発展授業	